

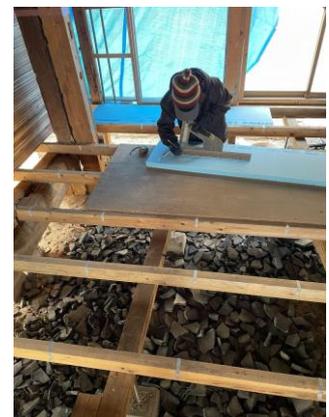
地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	穎娃おこそ会
役職	
氏名	佐藤利江子
着任日	令和5年6月1日

活動月	令和7年2月（着任22ヶ月）
主な活動	1. 他地域での作業へ参加 2. 市への報告会 3. 活動のまとめ

1. 他地域での作業へ参加

先月に引き続き、近隣地域でのDIY作業へ参加させていただきました。断熱材の敷き込み、束の補強、廃材を利用したプランター作り、土間打ち等の作業を行いました。これまで1年10ヵ月の間、様々な物件と作業に携わりましたがなかなか技術が身につかなかったというのが現実です。一緒に作業する方々が素人なので当然と言えば当然です。しかし、技術の向上があまり見込めない中でも、現場の方々と交流できたことは大変貴重な時間となりました。一緒に悪戦苦闘するからこそ芽生える信頼関係のようなものがあってよいと思います。これは師弟関係では得難いもので、DIY現場の大きな魅力の一つで新しい発見でした。



地域おこし協力隊活動報告書

2. 市への報告会

3月24日に知覧庁舎にて市への活動報告をさせていただきました。

副市長はじめ、市役所の方々と意見交換できる貴重な機会となりました。

お忙しいところ時間を作ってください、ありがとうございました。

3. 活動のまとめ

3月をもって私の協力隊の活動は終了となりました。コミュニティ大工の見習いとして着任しましたが、自分の方向性がはっきり定まらず、手探り状態での活動となりました。そんな中で、ひとまず現場に行き、学べる事を学ぼうと思い、色々な現場に入らせていただきました。教わることも多かったですが、一緒に考えることが多く、一つ一つのことをよく考えるようになりました。通常会社でしたら、できる人から教わるので、記憶することは早いかもしれませんが、深く意味を考える機会は少ないのかもしれませんが。その意味では、技術よりも大事なことを身に着けたように思います。

また、着任前も建築の仕事に携わって来ましたが、建築の難しさ面白さを改めて知る機会となりました。特に難しかったことは構造面での考え方でした。古民家改修は現在の建築基準法に適合していない物件を多く扱います。私は構造の専門家でも、建築士でもないの、明確な判断や助言ができません。そして一般的な構造計算では判断できないような物件ばかりです。改めて構造について「本当に大丈夫か」ということを考えるようになりました。今までいかに自分が数字上、図面上でしか判断してこなかったかということに気がつきました。その他にも建築は考えることが本当に多くあります。そして多様な方法があり、自由さがあることも知りました。次は自分で自分のものを作ることが私の大きな夢となりました。

当初は大工スキルを身に付け、自らが改修した空き家を移住者のための住居とすることが、空き家問題の解決方法の手段の一つとなればという思いで着任しました。実際に着任し、コミュニティ大工は作業を共同で行うという過程を通し、そこに関わる人や地域との関係性を築く形態として有効だと感じました。そのため空き家を商店やゲストハウス等「人が集まってにぎわう場所を作る」という目的を持つ場合に特に有利なように思いま

地域おこし協力隊活動報告書

す。一方、空き家から少し視線を逸らすと、南九州市には土地が多く、眺めが良い場所が数多くあります。耐震基準や省エネが見直され、以前よりずっと快適な家を建てることができるようになりました。また、リフォームに関しても断熱や省エネの基準に見合ったものを専門の施工業者に依頼して行えば補助金が受けられます。空き家の改修も手段の一つですが、新築やアパート等の賃貸も含め、定住を希望する方がすぐに快適な生活をスタートできる環境を整えることも必要だと考えられます。

2年弱という短い期間でしたが協力隊という活動を通し、たくさんの学びと出会いがありました。なんのスキルもなく、関係性もない私を継続的に受け入れてくださった現場の皆様、一回でも現場に入らせてくださった皆様、本当にありがとうございました。現場がなければ私の活動は続けられませんでした。仕事場所であり、友人の家のような安らげる場所でした。また、協力隊の受け入れ先として、事前に準備してくださった颯娃おこそ会の皆様、対応してくださった市役所の皆様、ありがとうございました。そして、着任から続けて研修させていただいた工務店の皆様、ありがとうございました。当たり前のことを日々着々となし、地域の方々から必要とされている存在の大きさを知りました。

最後になりましたが、活動を見守ってくださった地域の皆様と支えてくれた家族に感謝します。本当にありがとうございました。